

授業科目	トレーニングⅠ〔AT2〕		担当教員	伊藤 秀吉	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得、クライアントに合わせた適切な指導ができる。また、現場を重視し、計画的な指導や機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができることを目標とする。				
到達目標					
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編 改訂版 トレーニング指導者テキスト実践編 改訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	実技試験、提出物(トレーニング動画資料等)その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物	30%			
	その他	20%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス・体力測定	年間授業計画/評価方法/自己紹介		
	2	ウォーミングアップ	アクティブストレッチ		
	3	自重トレーニング①	体幹・股関節トレーニング①		
	4	自重トレーニング②	体幹・股関節トレーニング②		
	5	自重トレーニング③	下半身トレーニング		
	6	自重トレーニング④	上半身トレーニング		
	7	トレーニング動画発表会準備①	グループワーク①		
	8	トレーニング動画発表会準備②	グループワーク②		
	9	トレーニング動画発表会	発表本番①		
	10	トレーニング動画発表会	発表本番②		
	11	実技試験準備①	メニュー作成①		
	12	実技試験準備②	メニュー作成②		
	13	実技試験準備②	指導シミュレーション		
	14	実技試験①	グループ毎の集団トレーニング指導		
	15	実技試験②	グループ毎の集団トレーニング指導		
	16	様々なツールを利用したトレーニング①	ヒップバンド		
	17	様々なツールを利用したトレーニング②	チューブ		
	18	様々なツールを利用したトレーニング③	バランスボール、BOSU		
	19	様々なツールを利用したトレーニング④	スライドディスク		
	20	競技動作トレーニング①	コーディネーショントレーニング①		
	21	競技動作トレーニング②	コーディネーショントレーニング②		

	22	競技動作トレーニング③	アジリティトレーニング
	23	競技動作トレーニング④	プライオメトリクストレーニング
	24	競技動作トレーニング⑤	バランストレーニング
	25	実技試験準備①	メニュー作成
	26	実技試験準備②	メニュー作成
	27	実技試験準備③	生徒同士での指導シミュレーションとフィードバック
	28	実技試験準備④	生徒同士での指導シミュレーションとフィードバック
	29	実技試験①	実際のアスリートに対するトレーニング指導
	30	実技試験②	実際のアスリートに対するトレーニング指導

[illegible]

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ 〔共通2〕		担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。					
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての 資質を身に付ける。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する			
	レポート	10				
	小テスト	0				
	提出物	10				
	その他	80				
履修上の 留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題		履修内容		
	1	事前説明会		目的、注意事項伝達		
	2	1日目午後レッスン開始		各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ		
	3	1日目ミーティング		1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	4	1日目ナイター練習		1日目に学んだことを復習する。		
	5	2日目午前レッスン開始		1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	6	2日目午後レッスン開始		1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	7	2日目ミーティング		2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	8	2日目ナイター練習		2日目に学んだことを復習する。		
	9	3日目午前レッスン開始		2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	10	3日目午後レッスン開始		2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	11	3日目ミーティング		3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	12	3日目ナイター練習		3日目に学んだことを復習する。		
	13	4日目午前レッスン開始		各班に分かれ、検定へ向けてレッスンを する		
	14	4日目検定		今まで学んだことを踏まえて検定に臨む		
	15	4日目ミーティング		4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		

[illegible]

授業科目	トレーナー総合実習Ⅲ〔AT2〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	実技		授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	アスレティックトレーナー業務全般をトレーナー現場にて実践できる。				
到達目標	アスレティックトレーナーとして現場で活動できる（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、検査測定と評価）				
テキスト・参考図書等	全公認 AT テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		トレーナー実習報告書の提出をもって、活動状況を把握する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	2	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	3	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	4	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	5	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	6	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	7	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	8	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	9	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	10	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	11	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	12	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	13	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	14	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	15	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		

[illegible]

授業科目	トレーナー総合実習Ⅳ 〔AT2〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	実技		授業回数	15回	時間数
授業目的	アスレティックトレーナー業務全般をトレーナー現場にて実践できる				
到達目標	アスレティックトレーナーとして現場で活動できる（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、検査測定と評価）				
テキスト・参考図書等	全公認 AT テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		トレーナー実習報告書の提出をもって、活動状況を把握する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	2	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	3	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	4	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	5	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	6	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	7	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	8	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	9	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	10	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	11	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	12	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	13	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	14	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		
	15	トレーナー実習	トレーナー演習、実践（コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、測定と評価）		

[illegible]

授業科目	ボランティア活動Ⅱ〔共通2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。				
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。（ボランティア活動先の担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。） 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	14	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		

[illegible]

授業科目	AT 対策Ⅲ〔AT2〕		担当教員	菅原 稜平	
対象年次・学期	2 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、読解力の向上、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。				
到達目標	A T 理論試験合格				
テキスト・参考図書等	第 2 巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	定期テスト、教員から指示のあった提出物への取り組み、その他(出席点、受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	30			
履修上の留意事項	『第 2 巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』を中心に使用。各自 OX 問題を解答後、テキストを読解しながら正誤判定していく。また、AT 筆記試験過去問以外の問題に取り組む時間、全体での口頭諮問も取り入れていく。検定合格に近づけるように、みなさんの積極的な取り組み方と継続的な努力に期待しています。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、授業について	授業内容説明、諸注意等		
	2	運動器の機能と解剖	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	3	運動器の機能と解剖	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	4	運動器の機能と解剖	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	5	運動器の機能と解剖	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	6	スポーツ外傷・障害の基礎知識	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	7	スポーツ外傷・障害の基礎知識	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	8	スポーツ外傷・障害の基礎知識	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	9	スポーツ外傷・障害の基礎知識	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	10	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	11	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	12	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	13	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	14	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	15	検定試験対策模擬試験	模擬試験の実施		
	16	予防とコンディショニング	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	17	予防とコンディショニング	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	18	予防とコンディショニング	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	19	予防とコンディショニング	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	20	予防とコンディショニング	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	21	アスレティックリハビリテ	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		

		ーション	
	22	アスレティックリハビリテーション	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	23	アスレティックリハビリテーション	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	24	アスレティックリハビリテーション	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	25	アスレティックリハビリテーション	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	26	救急処置	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	27	救急処置	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	28	救急処置	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	29	救急処置	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
	30	検定試験対策模擬試験	模擬試験の実施

[illegible]

授業科目	カレッジイベントⅡ〔トレ2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

[illegible]

授業科目	コミュニケーションⅡ 〔AT2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。				
到達目標	自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法		
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか		
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野においての調査		
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法		
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について		
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①		
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②		
	8	一般常識①	漢字（読み・書き）		
	9	一般常識②	丁寧語、敬語		
	10	一般常識③	挨拶、接遇		
	11	一般常識④	マナー、一般常識（応用）		
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話		
	13	まとめ①	確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語）		
	14	まとめ②	確認テスト（挨拶・接遇）		
	15	まとめ③	確認テスト（マナー・一般常識応用）		

[illegible]

授業科目	スポーツ医学 内科〔トレ2〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	スポーツ医学（内科的疾患）について、その病態と対応策を理解し、実践できることを目的とする。				
到達目標	スポーツ活動で起きうる内科的疾患の説明が出来る。				
テキスト・参考図書等	公認A Tテキスト④				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	受講姿勢、受講態度等を評価基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	アスリートにみられる内科疾患 1	突然死、熱中症、オーバートレーニング、過換気症候群、気管支喘息		
	2	アスリートにみられる内科疾患 2	摂食障害、貧血、血液疾患、腎・尿路系疾患、消化器系疾患		
	3	アスリートにみられる内科疾患 3	虚血性心疾患、弁膜症、心筋症、心不全、不整脈		
	4	アスリートにみられる内科疾患 4	腎不全、生活習慣病		
	5	アスリートの体調管理	メディカルチェック方法		
	6	ドーピング問題、女性とスポーツ	ドーピングの危険性、女性特有のスポーツ障害		
	7	救急処置法	心肺蘇生法		
	8	確認テスト	確認テストの実施		
	9	アスリートにみられる内科疾患 1	消化器系、血液疾患		
	10	アスリートにみられる内科疾患 2	呼吸器系		
	11	アスリートにみられる内科疾患 3	感染症（ウイルス感染）		
	12	アスリートにみられる内科疾患 4	腎泌尿器系、内分泌		
	13	ドーピングコントロール	ドーピングの種類、基準について		
	14	高齢者、子どもの運動	高齢者、子どもの運動指導時に注意すべきこと。		
15	特殊環境下での疾患、救急処置	高地、寒冷、高温（多湿）環境下での運動について			

[illegible]

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎Ⅱ〔AT2〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的な知識について理解する。そのために、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障害の病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。				
到達目標	各スポーツ外傷・障害についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について理解・習得することができるようになる。整形外科的メディカルチェックの方法を説明出来る。				
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト2 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	受講姿勢、受講態度等を評価基準とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	特になし。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	下肢のスポーツ外傷・障害1	ACL 損傷		
	2	下肢のスポーツ外傷・障害2	PCL 損傷		
	3	下肢のスポーツ外傷・障害3	MCL 損傷、LCL 損傷		
	4	下肢のスポーツ外傷・障害4	大腿部打撲、膝蓋靱帯炎		
	5	下肢のスポーツ外傷・障害5	アキレス腱断裂		
	6	下肢のスポーツ外傷・障害6	足関節内反捻挫、扁平足障害		
	7	上肢のスポーツ外傷・障害1	肩関節脱臼（コンタクト）		
	8	上肢のスポーツ外傷・障害2	肩鎖関節脱臼		
	9	上肢のスポーツ外傷・障害3	肩インピンジメント症候群		
	10	上肢のスポーツ外傷・障害4	肘MCL 損傷		
	11	上肢のスポーツ外傷・障害5	突き指、TFCC 損傷		
	12	体幹のスポーツ外傷・障害1	腰椎椎間板ヘルニア		
	13	体幹のスポーツ外傷・障害2	腰椎分離症		
	14	体幹のスポーツ外傷・障害3	筋膜性腰痛		
	15	体幹のスポーツ外傷・障害4	頸椎捻挫、頸椎椎間板ヘルニア		

[illegible]

授業科目	テーピングテクニックⅡ〔AT2〕		担当教員	山岸 舞	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	基本的な機能解剖学およびスポーツ外傷学の知識をベースとした各部位におけるテーピング技術を学ぶ。				
到達目標	トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピングを行うことができる。				
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」 身体運動の機能解剖 改訂版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	実技試験の結果およびその他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	30			
履修上の 留意事項	デモンストレーション後、各人に実技練習をしてもらいます。テーピング部位に関しての解剖学、運動学、外傷学の知識習得も同時に行う。①実技試験は授業にて実施、②テーピングを行う部位により、Tシャツ、ハーフパンツ着用の指示あり、トレーナー、スポーツ指導者にとってテーピングテクニックは、絶対に身につけなければならない手技の一つです。何度も反復練習し自身のバリエーションを増やしましょう。皆さんの積極的な取組を期待しています。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス／テーピング総論	講義の説明、その他／テーピング実施時の注意事項		
	2	足関節	足関節内返し捻挫 復習		
	3	足関節	伸縮テーピングを用いた足関節内返し捻挫のテーピング①		
	4	足関節	伸縮テーピングを用いた足関節内返し捻挫のテーピング②		
	5	足関節	足関節外返し捻挫、応急処置のテーピング		
	6	実技試験	足関節（小テスト）		
	7	足部	母趾過伸展捻挫、種子骨障害、踵部挫傷		
	8	足部	足底腱膜炎のテーピング①非伸縮、②伸縮		
	9	実技試験	足底腱膜炎、母趾過伸展捻挫、種子骨障害、踵部挫傷（小テスト）		
	10	足関節(底屈制限)	有痛性三角骨、距骨後突起障害、前脛骨筋腱炎、前脛腓靱帯損傷		
	11	足関節(背屈制限)	フットボーラーズアングル、アキレス腱炎、前脛腓靱帯損傷		
	12	実技試験	底屈制限、背屈制限（小テスト）		
	13	足関節	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱部滑液包炎		
	14	下腿部	下腿三頭筋肉ばなれ、シンシプリント		
	15	実技試験	アキレス腱炎(3種)、下腿肉離れ、シンシプリント（小テスト）		
	16	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	17	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	18	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	19	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		
	20	膝関節	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷		

	21	実技試験	ACL、MCL,LCL 靱帯損傷（小テスト）
	22	大腿部	大腿部打撲・肉ばなれ
	23	大腿部	大腿部打撲・肉ばなれ
	24	実技試験	大腿部打撲・肉ばなれ（小テスト）
	25	肩関節	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫
	26	肩関節	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫
	27	実技試験	肩関節反復性前方脱臼、肩鎖関節捻挫（小テスト）
	28	肘関節	肘関節過伸展捻挫、肘関節内側側副靱帯損傷
	29	手関節	手関節捻挫、指捻挫
	30	実技試験	肘関節、手関節（小テスト）

[illegible]

授業科目	トレーニング科学〔AT2〕		担当教員	天野 雅斗	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	トレーニングを多角的側面から捉え、競技スポーツや一般層との関連を学び、様々な角度から『科学的にトレーニングを理解』する				
到達目標	同上				
テキスト・参考図書等	パワーポイント・板書・都度配布資料をベースに動画や実践事例を交えて授業を展開していく				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		レポート・小テスト・その他(授業の取り組み姿勢)を合わせ、総合的に評価します。		
	レポート	25			
	小テスト	60			
	提出物				
	その他	15			
履修上の留意事項	配布資料の保管等、管理を徹底すること				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・トレーニング業界	学習到達目標、トレーニング業界について		
	2	様々なトレーニング法	各種トレーニング理論について		
	3	トレーニング科学とは・・・	トレーニング科学とは・・・		
	4	運動指導の科学①	動作の成り立ち、神経系の発達		
	5	運動指導の科学②	指導の対象(年齢、性別、技術レベル)		
	6	運動指導の科学③	動作の習得		
	7	運動指導の科学④	トレーニング方法と環境が及ぼす影響		
	8	トレーニング効果の測定と評価①	トレーニング指導における測定と評価の意義と目的		
	9	トレーニング効果の測定と評価②	測定と評価の実際①		
	10	トレーニング効果の測定と評価③	測定と評価の実際②		
	11	測定データの活用	トレーニング指導におけるフィードバック、タブレットやウェアブル端末の活用		
	12	疲労の科学	アイシングや睡眠が及ぼす影響について		
	13	ジュニア期のトレーニング	ジュニア期のトレーニング		
	14	高齢者のトレーニング	高齢者に対するトレーニング		
	15	パワートレーニング	パワートレーニングについて		

[illegible]

授業科目	バイオメカニクス〔AT2〕		担当教員	伊藤 秀吉	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	運動と言うものを科学的観点から理解することを目的とする。				
到達目標	様々な運動を力学的にとらえて論じることが出来る。 様々な運動における効率的な動作を説明できる。 怪我を誘発する動作について説明できる。				
テキスト・参考図書等	授業は基本的に PowerPoint を用いて行う。 参考書：アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト 2 スポーツ科学概論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内で配布する課題、およびその他（出席状況、受講態度等）を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
	その他	60			
履修上の留意事項	運動に興味を持って臨んでほしいと思います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	バイオメカニクスとは	バイオメカニクスとは何なのか、これから何を学ぶのか、何故必要なのかを知ってもらいます		
	2	基礎：重心と床反力	バイオメカニクスを学ぶ上で必要な基礎力学について解説します。		
	3	基礎：関節モーメント	各種運動時、人体の中でどのようなことが起きているのか、力学的に解説します。		
	4	基礎：跳躍動作	跳躍動作に必要な力学について解説します。		
	5	基礎：歩行①	最も基本と言える動作、歩行についてを力学的に解説します。		
	6	基礎：歩行②	良い歩行とは何なのか、場面に分けて解説します。		
	7	応用：走動作	走る動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	8	応用：方向転換動作	方向転換動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	9	応用：跳動作①	跳ぶ動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	10	応用：跳動作②	跳ぶ動作を含む具体的な競技を例に出して、効率的な跳ぶ動作について解説します。		
	11	応用：投動作	投げる動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	12	応用：あたり動作	衝突動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	13	応用：泳動作	泳ぐ動作について、過去の研究結果を元に理論的に解説します。		
	14	特殊：障がい者の歩行について	足を切断して義足を履いた人の歩行が、健常者とのように違うのか解説します。		
15	総復習	AT 国家試験に向けて、過去問を参考に総復習を行います。			

[illegible]

授業科目	ビジネススキル〔トレ2〕		担当教員	矢島 靖子	
対象年次・学期	2年・後期1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築するために必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。				
到達目標	大人としての自覚を持ち、日常生活においても敬意あるマナーの実践と・コミュニケーション能力を発揮し、学内外において評価に繋がるより良い人間関係を築く第一歩である基本を身につけること。				
テキスト・参考図書等	教科書（社会人常識マナー検定テキスト2・3級）、プリント配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験 60%、小テスト 30%、宿題 10%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	10			
	その他	0			
履修上の留意事項	板書形式の授業を通し上記の知識を高めていく。必要に応じプリント教材などを使用する。この授業を通し、一人の大人として必要な心構えを身に付け、ビジネス社会へはばたくための準備をしてください。ここで身に付けたスキルを学校生活においても是非有効に活用してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	自己紹介	マナーとは		
	2	I 社会人としてのマナーと心構え	服装・髪型・挨拶・お礼・姿勢・時間管理・報告・コミュニケーションスキル・整理整頓		
	3	I 社会人としてのマナーと心構え	服装・髪型・挨拶・お礼・姿勢・時間管理・報告・コミュニケーションスキル・整理整頓		
	4	I 社会人としてのマナーと心構え	服装・髪型・挨拶・お礼・姿勢・時間管理・報告・コミュニケーションスキル・整理整頓・小テスト		
	5	II 接客対応	言葉遣い、敬語・尊敬語、接客対応、態度、お辞儀、立ち居振る舞い		
	6	II 接客対応	言葉遣い、敬語・尊敬語、接客対応、態度、お辞儀、立ち居振る舞い、小テスト		
	7	III 電話対応	タイミング、話し方、表情、否定言葉の言い換え、メモの仕方と渡し方 など		
	8	III 電話対応	タイミング、話し方、表情、否定言葉の言い換え、メモの仕方と渡し方 など 小テスト		
	9	IV ビジネス文章とEメール	件名、返信、文章の書き方、時候、挨拶		
	10	IV ビジネス文章とEメール	件名、返信、文章の書き方、時候、挨拶、小テスト		
	11	V ビジネスシーン	名刺交換、座席、訪問、交際業務（慶弔マナー）		
	12	V ビジネスシーン	名刺交換、座席、訪問、交際業務（慶弔マナー）、小テスト		
	13	VI 企業に属するとは	守秘義務、コンプライアンス、規定、社内行事、チームワーク、ハラスメント、ネットリテラシー		
	14	VI 企業に属するとは	守秘義務、コンプライアンス、規定、社内行事、チームワーク、ハラスメント、ネットリテラシー、小テスト		
15	VII 試験対策	問題練習／解答解説			

[illegible]

授業科目	各種トレーニング法の実際〔AT2〕		担当教員	大菅 貴広	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	トレーニング理論と実践を様々な視点から学び、実技能力の向上を目指す				
到達目標	同上				
テキスト・参考図書等	●トレーニング指導者テキスト理論編 改訂版 ●トレーニング指導者テキスト実践編 改訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	実技試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。 オンラインの場合は小テストなどに変更して評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	配布資料の保管等、管理を徹底すること				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	年間計画・評価方法確認・自己紹介		
	2	体力測定	各種体力測定・測定結果分析・目標設定		
	3	BIG 3 の習得・修正	基本の BIG 3 のフォーム確認		
	4	上肢のトレーニングテクニック①胸部	胸部を中心とした内容		
	5	上肢のトレーニングテクニック②背部・肩部	背部・肩部を中心とした内容		
	6	上肢のトレーニングテクニック③上腕部・前腕部	上腕部・前腕部を中心とした内容		
	7	下肢のトレーニングテクニック①大腿部・臀部	大腿部・臀部を中心とした内容		
	8	下肢のトレーニングテクニック②大腿部・臀部	大腿部・臀部を中心とした内容		
	9	下肢のトレーニングテクニック③大腿部・下腿部	大腿部・下腿を中心とした内容		
	10	体幹のトレーニングテクニック①	スタビリティ・回旋・伸展系		
	11	体幹のトレーニングテクニック②	スタビリティ・回旋・伸展系		
	12	体幹のトレーニングテクニック③	競技特異的		
	13	前期復習			
	14	実技試験	前期内容からの実技試験		
	15	合同トレーニング			
	16	胸椎回旋に着目したトレーニング①	スポーツパフォーマンスに欠かせない胸椎に着目した内容		
	17	胸椎回旋に着目したトレーニング②	スポーツパフォーマンスに欠かせない胸椎に着目した内容		
	18	股関節に着目したトレーニング①	スポーツパフォーマンスに欠かせない股関節に着目した内容		
19	股関節に着目したトレーニング①	スポーツパフォーマンスに欠かせない股関節に着目した内容			

	20	スピード向上のためのトレーニング①	スタート・加速局面・最大スピード局面など
	21	スピード向上のためのトレーニング②	スタート・加速局面・最大スピード局面など
	22	オリンピックリフティング①	パワークリーンの動作習得
	23	オリンピックリフティング②	パワークリーンの動作習得
	24	オリンピックリフティング③	パワークリーンの動作習得
	25	実技試験	パワークリーンの実技試験
	26	パワー向上トレーニング①	プライオメトリクス
	27	パワー向上トレーニング②	プライオメトリクス
	28	パワー向上トレーニング③	メディシンボール
	29	パワー向上トレーニング④	メディシンボール
	30	合同トレーニング	

[illegible]

授業科目	健康プログラムⅠ〔トレⅡ〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようにする。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようにする。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用（現場経験）＝専門（プロ）となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容、成績評価基準、諸注意等の説明		
	2	Ⅰ運動と健康	運動と健康		
	3	Ⅰ運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	4	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング①		
	5	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング② 着地衝撃とその緩和法		
	6	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング③ 投動作と打動作の共通点、運動と流体力		
	7	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	マシーントレーニング		
	8	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	9	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調① 1) 体調チェックの意義と方法		
	10	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調② 2) スポーツと疲労回復(栄養と休養)		
	11	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン①		
	12	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン②		
	13	運動生理学	運動と血液・体液 成長期における体力・基本的動作のスキル発達		
	14	運動生理学 まとめ①	成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下 体力に及ぼす先天的・後天的効果 学習内容の復習		
15	まとめ②	学習内容の復習			

[illegible]

授業科目	健康プログラムⅡ〔トレⅡ〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようになる。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようになる。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用（現場経験）＝専門（プロ）となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業について、諸注意等		
	2	Ⅳ体力測定と評価	体力測定の方法		
	3	Ⅳ体力測定と評価	体力測定の方法		
	4	Ⅳ体力測定と評価	測定結果の処理		
	5	Ⅳ体力測定と評価	体力評価とスポーツプログラム		
	6	Vフィットネスプログラムの実際	フィットネスプログラムの基本的方法 トレーニングの原則、健康増進のための運動効果		
	7	Vフィットネスプログラムの実際	子どものフィットネスプログラム① 身体活動に指針の具体例		
	8	Vフィットネスプログラムの実際	子どものフィットネスプログラム② ウォームアップとクールダウン		
	9	Vフィットネスプログラムの実際	中年のフィットネスプログラム① 運動プログラムの基本的考え方、目標設定		
	10	Vフィットネスプログラムの実際	中年のフィットネスプログラム② 運動のプログラミング		
	11	Vフィットネスプログラムの実際	女性のフィットネスプログラム／障害者のフィットネスプログラム 有酸素運動、レジスタンス運動		
	12	Ⅵスポーツ相談の実際	スポーツ相談の意義／スポーツ相談の実施		
	13	まとめ①	学習内容の復習		
	14	まとめ②	学習内容の復習		
15	まとめ③	学習内容の復習			

[illegible]

授業科目	健康運動実践指導者対策実技〔トレ2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者検定合格に向けて、レジスタンス運動・有酸素運動の指導実践ができるようになる。				
到達目標	健康運動実践指導者実技試験を合格するレベルで指導できる。				
テキスト・参考図書等	プリント、DVD				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テストでは模擬試験での評価とする その他は積極的な受講姿勢等で評価する		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	10			
	その他	40			
履修上の留意事項	スタジオ・プールでの指導実践が中心となる。健康運動実践指導者に必要な指導能力を理解し、指導者としての資質向上を目指し取り組んでいきましょう。皆さん自身の指導実演能力が問われる資格です。この授業で100%合格できる自信をつけられるよう学んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	(共通)ガイダンス	(共通)授業の進め方について説明・検定内容の説明、ステップの確認、W-up・C-down		
	2	有酸素運動・レジスタンス運動の基礎学習	DVD視聴および内容の把握・暗記、実演、W-up・C-down		
	3	指導練習①	レジスタンス運動の指導方法		
	4	指導練習②	レジスタンス運動の指導方法		
	5	指導練習③	レジスタンス運動の指導方法		
	6	指導練習④	レジスタンス運動の指導方法		
	7	指導練習⑤	有酸素運動の指導方法		
	8	指導練習⑥	有酸素運動の指導方法		
	9	指導練習⑦	有酸素運動の指導方法		
	10	指導練習⑧	有酸素運動の指導方法		
	11	指導練習⑨	5分間の実践指導練習		
	12	指導練習⑩	5分間の実践指導練習		
	13	指導練習⑪	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	14	模擬試験	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	15	模擬試験	検定合格基準に満たない学生対象の再試験実施		

[illegible]

授業科目	健康運動実践指導者対策理論〔トレ2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格を目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	練習問題・解きなおし①	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	2	練習問題・解きなおし②	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	3	練習問題・解きなおし③	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	4	練習問題・解きなおし④	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	5	模試①	試験本番を想定した模試の実施		
	6	練習問題・解きなおし⑤	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	7	練習問題・解きなおし⑥	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	8	練習問題・解きなおし⑦	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	9	練習問題・解きなおし⑧	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	10	模試②	試験本番を想定した模試の実施		
	11	練習問題・解きなおし⑨	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	12	練習問題・解きなおし⑩	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	13	練習問題・解きなおし⑪	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	14	練習問題・解きなおし⑫	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	15	模試③	試験本番を想定した模試の実施		

[illegible]

授業科目	健康運動理論Ⅰ〔AT2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動理論Ⅰ、健康運動理論Ⅱの履修で健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%			
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	40%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・第1章 健康運動づくり施策概論	授業内容説明、諸注意、その他 1)健康と健康増進の概念		
	2	第1章 健康づくり施策概論	1)健康と健康増進の概念 2)わが国の現状		
	3	第1章 健康づくり施策概論	3)生活習慣病とメタボリックシンドローム 他		
	4	第2章 運動生理学	1)運動の発現 2)骨格筋収縮の仕組み 筋収縮エネルギー供給機構		
	5	第2章 運動生理学	3)筋線維タイプと収縮特性 5)筋収縮の様式と筋力		
	6	第2章 運動生理学	6)トレーニングと骨格筋 7)運動の持続と呼吸循環 他		
	7	第2章 運動生理学	11)トレーニングによる呼吸循環系の適応 他		
	8	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	1)身体運動に関係する筋と骨格 2)関節運動		
	9	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	3)筋の弾性要素と弾性エネルギー 他		
	10	第4章 栄養摂取と運動	1)健康と栄養、消化、吸収、食品群		
	11	第4章 栄養摂取と運動	8)生活習慣と栄養・食生活、生活習慣病と栄養と食生活		
	12	第5章 運動指導の心理学的基礎	1)運動実践にかかわる社会・心理・環境的要因 他		
	13	第5章 運動指導の心理学的基礎	2)運動実践によって得られる心理的効果の内容とその効果を高める要因 他		
	14	まとめ・復習(1章～3章)	プリント・模試による復習とまとめ		
15	まとめ・復習	プリント・模試による復習とまとめ			

[illegible]

授業科目	健康運動理論Ⅱ〔AT2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動理論Ⅰ、健康運動理論Ⅱの履修によって健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	レポート、小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を考慮し、評価します。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	40			
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容説明、諸注意、その他		
	2	第6章 体力測定と評価	1) 体力とは 他		
	3	第6章 体力測定と評価	2) 体力測定のセルフチェック 他		
	4	第7章 運動づくりと健康プログラム	1) 健康づくりのための運動・トレーニングの原理・原則 他		
	5	第7章 運動づくりと健康プログラム	4) ウォームアップとクールダウン 他		
	6	第8章 健康づくり運動の実際	1) 健康運動実践指導者とは		
	7	第8章 健康づくり運動の実際	2) 運動指導の流れ 他		
	8	まとめ小テスト 第8章 健康づくり運動の実際	復習・小テスト		
	9	第8章 健康づくり運動の実際	5) 水泳・水中運動 6) ストレッチング		
	10	第8章 健康づくり運動の実際	7) レジスタンス運動		
	11	第8章 健康づくり運動の実際	8) ウォームアップとクールダウン 他		
	12	第9章 運動障害と予防・応急処置	1) 運動中止の判定 2) 内科的な急性・慢性障害		
	13	第9章 運動障害と予防・応急処置	1) 運動前の内科的メディカルチェックについて 他		
	14	第9章 運動障害と予防・応急処置	2) 内科的な急性障害 他		
	15	まとめ・模試	模試		

[illegible]

授業科目	就職セミナー〔トレ2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	各学科就職学年前年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	就職への意識づけ、意欲向上を目的とする。				
到達目標	各種セミナーに積極的に参加することで、社会人に必要な知識・能力について理解を深めることができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	セミナー担当者に、各プログラムに対する取り組み状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(セミナー担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「レポート(感想、アンケート含む)」の提出をもって、取り組み状況を把握する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	セミナー参加に対する各自の目標設定等が大変重要となります。就職活動がより充実したものとなるように、積極的にコミュニケーションを図りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	就職セミナーの目的説明、挨拶練習、その他		
	2	セミナー①	就職活動と社会人		
	3	セミナー①	就職活動と社会人		
	4	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	5	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	6	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	7	セミナー③	就活・スーツ・見出しなみについて		
	8	セミナー③	就活・スーツ・見出しなみについて		
	9	セミナー④	就活本番に向けて		
	10	セミナー④	就活本番に向けて		
	11	セミナー⑤	本当に必要な人材とは		
	12	セミナー⑤	本当に必要な人材とは		
	13	セミナー⑥	就活に向けての大切な第一歩！		
	14	セミナー⑥	就活に向けての大切な第一歩！		
15	まとめ	レポート作成、就職に関する意識調査、各種アンケート等			

[illegible]

授業科目	就職実務〔トレ2〕		担当教員	藤田 真	
対象年次・学期	3年／2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	1. 就職活動の流れを理解し、早期内定を得るよう円滑な就職活動へと繋げる。 2. 就職決定に向け自分自身を理解すること、客観的視野で自己分析を行うことへと繋げる。				
到達目標	就職内定を目標とした社会人基礎力を身に付け、様々な考え方を学び、社会人としての行動、判断、表現をすることができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料・プリント配布などを行う				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートおよび提出課題（履歴書作成）、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	40			
履修上の留意事項	パワーポイントや配布資料を中心として授業を実施をします。メモをとる習慣をこの授業内でも身に付けましょう。 毎回、数名の学生に時事問題についての発表を行ってまいります。全員が発表対象となりますので、しっかりと準備しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	就職の現状、就活スケジュール、受験報告書の作成・提出 求人票の見方、求職票の書き方、履歴書台本作り 【パソコン持参】		
	2	就活準備（1）	履歴書の書き方（練習用紙への記入、下書き作成、筆記用具・定規必須）		
	3	就活準備（2） 【課題授業】	履歴書完成 【期日までに2枚提出】		
	4	就活対策（1）	志望動機の作成について（自己PR作成、長所・短所） 【パソコン持参】		
	5	就活対策（2）	道スポドリルの活用（適性検査） 【WEB提出、パソコン持参】 企業へのアポイントの取り方		
	6	選考試験対策（1）	選考試験の種類と対策 面接試験対策（基本動作・身だしなみ・事前準備）		
	7	選考試験対策（2）	面接試験対策（成功例と失敗例、質問内容） 面接試験対策（グループディスカッション、集団面接）		
	8	企業説明会の参加と企業研究	企業説明会とは（参加準備・企業研究）		
	9	学内企業説明会 【レポート提出】	学内企業説明会参加、企業研究レポートの作成		
	10	選考試験対策（3）	内定礼状の作成 筆記試験対策（時事問題・一般常識テスト・小論文・レポート）		
	11	選考試験対策（4） 【課題授業】	筆記試験対策課題（一般常識テスト・小論文・レポート提出）		
	12	就職に向けて（1）	社会人基礎力とは（身に付けるべき必要なこと） プレゼンテーション力を身につける		
	13	就職に向けて（2）	グループディスカッション		
	14	就職に向けて（3）	就職法規の基礎知識について 未決定者の今後の取り組み		
15	就職に向けて（4）	就職への心構え（内定後の学校生活、未決定者の今後の取り組み）			

[illegible]

授業科目	身体の解剖と機能Ⅱ〔AT2〕		担当教員	橋場 晋也	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	JASA-AT 検定試験に必要な機能解剖学の内容を中心に講義を行います。 1年生で学んだ「人体の構造・仕組み・解剖学的用語」を、検定試験に向けて詳しい内容にブラッシュアップします。				
到達目標	授業内容の理解を把握するため「記述問題・5択問題」にて確認テストを実施します。 * 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目検定試験『理論試験(基礎)』の過去問題の内容で80%以上正解できるようにします。インプットした内容を、自分の言葉で学生間でアプトプットできるように努力・工夫してください。				
テキスト・参考図書等	① AT 教本テキスト2：運動器の解剖と機能 ② 運動生理学テキスト ③ 授業で配布する過去問・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	定期試験週間の試験は実施しません。 各授業ごとに行われる確認テスト（小テスト）、提出物、その他（出席率・授業態度）を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	70			
	提出物	20			
	その他	10			
履修上の留意事項	検定試験日から逆算して今できることをしっかりと学びましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	(学習達成目標、成績評価、諸注意)		
	2	関節の構造・関節の種類・軟骨の種類	関節の基本構造，形状による分類の理解，軟骨の種類		
	3	運動器の解剖・評価・姿勢とアライメント	静的・動的アライメントの理解，動きの基本面と軸		
	4	肩関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	5	肩関節の構造②	〃		
	6	肩関節の構造③	〃		
	7	肘関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	8	肘関節の構造②	〃		
	9	肘関節の構造③	〃		
	10	手関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	11	手関節の構造②	〃		
	12	手関節の構造③	〃		
	13	骨盤・股関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	14	骨盤・股関節の構造②	〃		
	15	骨盤・股関節の構造③	〃		
	16	膝関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	17	膝関節の構造②	〃		
	18	膝関節の構造③	〃		
	19	下腿の解剖①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	20	下腿の解剖②	〃		
	21	下腿の解剖③	〃		
	22	足関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		

	23	足関節の構造②	//
	24	足関節の構造③	//
	25	頰椎の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	26	頰椎の構造②	//
	27	胸椎と胸郭の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	28	胸椎と胸郭の構造②	//
	29	腰椎の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	30	腰椎の構造②	//

授業科目	身体の解剖と機能Ⅱ〔AT2〕	担当 教員 実務 経験	橋場晋也 有：■ 無：□	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、鍼灸師
対象年次・学期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	二年代研究課題Ⅰ〔トレⅡ〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	評価の目的、意義および役割	現場で必要な評価		
	2	姿勢・アライメント・筋委縮	姿勢の評価基準・指標、スポーツ活動と姿勢		
	3	姿勢・アライメント・筋委縮	筋委縮の観察、計測の目的と意義		
	4	関節弛緩性	関節弛緩性検査の目的、意義および検査方法		
	5	体力測定	体力測定（概論）、一般青年、成人を対象		
	6	体力測定	少年を対象、中・高齢者を対象		
	7	筋タイトネス	筋柔軟性・筋タイトネスとその検査測定の意義		
	8	全身持久力と敏捷性	全身持久力の目的と意義および手技と測定指標		
	9	全身持久力と敏捷性	敏捷性・協調性の目的と意義および具体的手法		
	10	関節可動域	関節可動域測定の目的、意義および検査方法、留意点		
	11	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義		
	12	徒手筋力検査	判定基準、検査上の留意点、検査手順		
	13	身体組成	目的と意義、および具体的手法		
	14	筋力および筋パワー	目的と意義および検査測定方法		
	15	筋力および筋パワー	機器による筋力評価		
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①		
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②		
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①		
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②		
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①		
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②		
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③		

	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

授業科目	二年代研究課題Ⅱ〔トレⅡ〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	アスリハの基本的な考え方(1)	段階的なプログラム処方		
	2	アスリハの基本的な考え方(2)	リスク管理／競技特性（体力特性・動作特性）		
	3	アスリハの基本的な考え方(3)	再発予防への配慮		
	4	アスリハの基本的な考え方(4)	安定性、可動性、協調性		
	5	足関節捻挫へのアスリハ(1)	概要説明		
	6	足関節捻挫へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	7	足関節捻挫へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	8	大腿後面肉離れへのアスリハ(1)	概要説明		
	9	大腿後面肉離れへのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	10	大腿後面肉離れへのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	11	前十字靱帯損傷へのアスリハ(1)	概要説明		
	12	前十字靱帯損傷へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	13	前十字靱帯損傷へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	14	肩関節前方脱臼へのアスリハ(1)	概要説明		
	15	肩関節前方脱臼へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導、アスリハプログラムの立案		
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①		
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②		
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①		
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②		

	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

授業科目	二年代研究課題Ⅲ〔トレⅡ〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	コンディショニングの概念	コンディショニングの概念とその要素		
	2	トレーニングの基礎	超回復、ATP産生について		
	3	トレーニングの基礎	筋線維タイプ、筋収縮様式について		
	4	トレーニングの原則	7原則の確認		
	5	ピリオダイゼーション	GAS理論、期分けの分類		
	6	トレーニングカテゴリー	トレーニングの分類		
	7	レジスタンスTr・プライオメトリクス	具体的種目の確認、その目的と効果		
	8	パワーエクササイズ	具体的種目の確認、その目的と効果		
	9	アジリティーTr	具体的種目の確認、その目的と効果		
	10	エンデュランストレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果		
	11	コーディネーショントレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果		
	12	サーキットトレーニング	具体的種目の確認とその目的と効果		
	13	フィットネスチェック	筋力、筋持久力、筋パワーの測定方法、全身持久力、アジリティーの各種測定方法		
	14	クーリングダウン	クーリングダウンの方法と実際		
	15	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの方法と実際		
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①		
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②		
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①		
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②		
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①		
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②		
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③		

	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

授業科目	スポーツの安全・健康管理〔AT2〕		担当教員	伊藤 秀吉	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	スポーツ現場における外傷・障害・事故・疾病等の実態を把握し、安全・健康にスポーツ実践者を支えていく為の考え方を身につける。				
到達目標	スポーツ現場における外傷・障害等の実態について理解し、予防対応策を検討することができる。				
テキスト・参考図書等	公認 AT テキスト②(安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物や授業態度を合わせ、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション スポーツ現場の外傷・障害・疾病等の実態	オリエンテーション 重篤な外傷・障害・事故・内科的疾患		
	2	各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響	環境的要因、用具、施設等の要因、生活習慣要因、心理的要因		
	3	健康管理について	健康管理システム、AT が担う役割、教育・啓発活動		
	4	健康管理について	アンチ・ドーピング、メンタルヘルス		
	5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	スポーツ医科学チームにおける AT の役割と留意点		
	6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	対象者に関する理解		
	7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	環境や競技・種目特性に関する理解		
	8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における AT の役割	重大事故発生に備えた対応		
	9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	データの種類とその活用・管理、内科的メディカルチェック		
	10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	整形外科的メディカルチェック：頭頸部		
	11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	整形外科的メディカルチェック：体幹		
	12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	整形外科的メディカルチェック：上肢		
	13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の各種評価と情報活用	整形外科的メディカルチェック：下肢		
	14	安全・健康管理およびスポ	フィジカルチェック		

		ーツ外傷・障害予防の各種 評価と情報活用	
	15	まとめ	振り返り、試験対策

[illegible]

授業科目	リコンディショニングⅡ 〔AT2〕		担当教員	小林 大介	
対象年次・学期	2 年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	1 年生で学習したリコンディショニングの概念、基礎知識、各部位における基本事項を踏まえ、各競技ごとの特性、スポーツ動作に応じた適応力、考え方を学習する。				
到達目標	各スポーツ動作、今日における機能的・体力的問題に対して、課題を解消するためのリコンディショニングプログラム、計画を考案するためのスキルを身に付ける。				
テキスト・参考図書等	公認 AT テキスト④リコンディショニング 目的に応じて、その他の公認 AT テキストから引用する				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	期末試験結果をもとに、受講姿勢、出席率、小テスト、レポートなどの内容を踏まえ、総合的に評価する。		
	レポート	10			
	小テスト	10			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の 留意事項	より専門的に、より実践的な話が続いていきます。経験したことがない競技でも、機能解剖学、運動学、トレーニングの知識を活用し、ただ覚えるのではなくイメージできること、考えられることなどの応用力が求められる内容です。少しずつでもいいので、理解を深めていきましょう。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	走動作の基礎知識・観察・分析	走動作位相から動作分析について		
	2	走動作のリコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	3	跳動作の基礎知識・動作・分析・リコンディショニング	跳躍動作の特徴、各競技における起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	4	方向転換の基礎知識・動作・分析・リコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	5	投球動作の基礎知識・動作・分析	各位相での機能的問題について		
	6	投球動作のリコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	7	打撃動作の基礎知識・動作・分析・リコンディショニング	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	8	泳動作の基礎知識・動作・分析	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	9	あたり動作の基礎知識・動作・分析	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	10	滑走動作の基礎知識・動作・分析	起こりやすい問題と要因へのリコンディショニング方法		
	11	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		
	12	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		
	13	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		
	14	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		
	15	各学習内容の復習と実践	理解度に応じて実技を含め行う		

[illegible]

授業科目	スポーツコンディショニングⅡ〔AT2〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	対象者の特徴が、コンディショニングに及ぼす影響を理解し、それらの情報を安全で効果的なコンディショニング計画立案と実践に活用できる				
到達目標	・対象者の特徴を理解し、安全で効果的なコンディショニング計画の立案と実践に活用できる				
テキスト・参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト3 コンディショニング 公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト3 コンディショニング				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	試験、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項	板書と実技が中心です。皆さんにどんどん質問していきます。まちがってもよいので、どんどん発言してください。1年生でやってきた事をベースとして基礎的な知識はもちろんだが、人前で話をする事などの能力がとても重要になる。またどんな事にも疑問を持つ姿勢も持ってほしい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	女性アスリートの特徴	LEA、無月経		
	2	成長期の特性1	発育・発達		
	3	成長期の特性2	運動能力の発達		
	4	高齢者の特性1	コンディショニングの重要性、トレーニング方法		
	5	高齢者の特性2	コンディショニングの重要性、トレーニング方法		
	6	障がい者へのコンディショニング1	コンディショニング概要、重度障害のある選手へのコンディショニング		
	7	障がい者へのコンディショニング2	エクササイズ実践		
	8	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察① ラグビー		
	9	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察② 野球		
	10	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察③ サッカー		
	11	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察④ フットサル		
	12	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察④ 陸上		
	13	競技種目とコンディショニング	競技別トレーニング考察⑤ バスケット		
	14	まとめ,確認テスト	振り返り・確認テスト		
15	まとめ,確認テスト	振り返り・確認テスト			

[illegible]

授業科目	AT 対策Ⅳ〔AT2〕		担当教員	山岸 舞	
対象年次・学期			必修・選択区分	2 年・集中	単位数
授業形態	座学		授業回数	30 回	時間数
授業目的	AT 理論試験合格を目的とする				
到達目標	AT 理論試験合格				
テキスト・参考図書等	AT 専門科目全テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	取り組み姿勢を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	AT 試験概要説明		
	2	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	3	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	4	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	5	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	6	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	7	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	8	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	9	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	10	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	11	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	12	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	13	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	14	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		
	15	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説		

[illegible]